

五分館だより

第4号

豊丘村公民館
第五分館
編集 社会部
印刷 龍共印刷(株)

堀越区の今日
人口 419人
世帯数 96戸
(H1.2.28現在)

存続の危機

さびれる祭りをどうする

堀越春日神社の春祭りの獅子舞、神楽が復活して十三年目になる。

当時は皆、一生懸命に練習をし、祭りを盛り上げて来たが、今日ではなんと空回りの感じが強く、お祭り青年の間でも、疑問の声が出ている。

舞っている獅子も気合の入



笛も太鼓もなんとかさまに

昭和五十一年、堀越区民会館に大多数の堀越区に住む青年が集まり、話し合い春日神社の獅子舞いを復活させた事が昨日のように感じられる。

何年ぶりの獅子の舞う祭りという事で最初の年は沢山の人が訪れたが、年々人数が減少し、さびしい、

昔語り

(その3)

節儉と吝嗇を混ぜこぜにする向があるが全く異色のものである。「浪費は美德なり」などと云う、金があり物が氾濫する現在でも勤儉と推譲が行なわれたら世の中はどんなに良くなるかなどとは老人の寝言に過ぎなくなった。

報徳の精神今なお脈々と

武田 寛

二宮翁は、又積小為大などとも教えられた。読んで字の如く、小を積んで大を為すとは貯蓄の大原則であるが、これを団結の力と置き換えて考える事も出来る。

個々の力は小さくとも団結する事に依って偉大な力となる事は間違い無い。

時代の流れに抗しきれず

報徳社は解散したが、永く培われたこの報徳の精神は郷土の心ある人々の間に今なお脈々として流れている事を感じ、心温まる想いである。

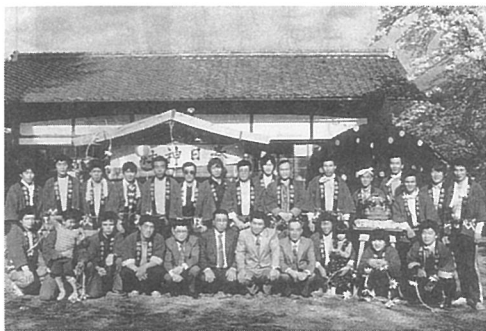
(完)

春日神社の歴史

神楽用具も新調

堀越区の春日神社は古代奈良県奈良市春日野町の春日神社本社より分霊を西之宮地域に我郷土の産土神として迎へ、年々神事と祭典を執行して参りました。

此の間年代と理由は不詳なれど、お聖人へ遷宮して境内神殿舞台等立派に整備され、獅子舞も盛大に行なわれた時代もありました。



新しい屋台と獅子の前で(S61)

それが発端となり、お祭りの主体は年番となり、『お祭り青年』は、その補助として、獅子舞、神楽をいっしょに行うという事になった。

祭りの本質とはなんぞやと論議してみたところで、昔と今では考え方もちがうし、特に若い衆は全く参加もしたくないそうである。

それが発端となり、お祭りの主体は年番となり、『お祭り青年』は、その補助として、獅子舞、神楽をいっしょに行うという事になった。

堀越春日神社として復元し、祭典も区長の配下となり今日に至って居ります。

昭和三十三年四月、大宮神社と完全分離合併以来実に五十一年として独立、堀越春日神社として復元し、祭典も区長の配下となり今日に至って居ります。

黒谷箋

「故郷創生」を唱えた竹下内閣より、「一億円」という大金が交付されたが、その使い道について、豊丘村でも色々な意見が出て、決定するまでにはかなり難かしいことである。

この事は私達が日頃より「村の活性化」について、真剣に考え、話し合っていないせいではなかったか、村当局に於いても「村の活性化」というテーマを持ち村民の考えを集約し、方向性を出していたなら、使い道について、遅ればぐれの「アイデア募集」などともなない事をしなくて済んだろうに。とにかく「一億円」で、本場の村の活性化を計ってもらいたいものである。

(日下部勝英)

昭和五十一年獅子舞復活 子供達に祭りを覚えてやりたい

なんとか後世に残す努力を

昭和五十一年四月の春祭りに向けて、なれない手つきで獅子を持ち、動かぬ指で又、音も出ない笛を必死に吹いた事も今はなつかしく思い出される。

そこで当時の初代お祭り青年会長と今の若者の意見を、聞いてみた。



子供にせまがれて夜店へ

私の子供の頃の思い出にお祭りがあります。僅かな小使いを貰って、夜店に走ったものでした。勿論、獅子舞いや囃子もありましたし、舞台では芝居、踊りも見せてくれました。その祭りも、当時の所得増進政策により、この地区からも若者が、都会に働きに出掛け、

新婚さん いらつしや〜い

今回は堀越の新婚さん紹介ということで、駒沢の松下ゆかりさん、中宮の堀本敦子さんを紹介します。二人共もうすぐお母さん。幸せいっぱいです。



松下ゆかりさん 23才
(敏文)

昭和六十二年十一月に、松下敏文さんと結婚されたゆかりさんは、大柏の出身で今年二十三才。六月には松下家大望のあかちゃんが生誕する予定です。

堀越に嫁いで一番感じたことは、近所の人達の心の暖かさ、朝早くから夕方まで、太陽が当る明るい家



堀本 敦子さん 25才
(丈文)

堀本文文さんと結婚された敦子さんは、北村の出身で昭和三十八年七月十八日

結局、獅子舞が中止になってしまった様であります。

その後十年程が過ぎ、私の子供が保育園に行っている時、昔の自分が楽しかったあの祭りを子供に見せてやりたいと思っていた。当時、堀越の若者は、バスケットは優勝するし、野球、ソフトボールもトップクラスであり、地区の若者は、非常にまとまっていた。

そうしたある日、試合後の某焼肉屋で、仲間の人たちに祭りの話しを相談してみた。皆が気持ちよく賛成してくれ話はまとまり、区の方の協力を得ながら、翌年の二月より練習に入りましたが、先輩の人達に教えてもらい、一生懸命に習った。

生まれの二十五才。

勤め先は飯田市今宮町の南信州新聞社に勤められていて、今年の四月が来て、八年目になるそうです。

結婚されて、こちらに住む様になったの感想を聞いた所、山の中だけれども家も沢山あり、人のまとまりも良く、近所づきあいがああるので、このことをこれからも大切にしていきたいと言っています。

今年の八月には二世が生ずるそうです。

とても誠実そうで控目の様な、やさしいお嫁さんでした。



さびしい獅子舞

祭りの当日は、勤めの人も休んで準備を手伝い、緊張した気持ちで本番となり、ひどい笛の音とともに、獅子舞が動き出したが、獅子は舞にならなかったか？無事終わり片付けの後、全員で酒の席となり、先輩の人、区の方の係の人と一緒に夜中の十二時まで飲みあった事を覚えている。

若者の声

全く無関心

参加はしたくない!!

お祭りについて書いてくると言われても僕は、はっきり言ってお祭りには感心が無く、参加したくないです。これは僕だけでは無く、若者ならこう思っている人が多いと思います。

僕も小さな頃は度々お祭りに参加した事がありましたが、最近のお祭りみたいにお店もなかったの、ただ両親に付いて行くだけだったと思います。

たしかにお祭りみたいには昔からあるものは、その時代の若者が受継いで来たから今こうしてあるのだと思うけれど、昔と今とは遊び

鍵役とは 鍵筒割

鍵役（かんやく）とはどういう意味かと、よくお尋ねをうける。

昔の住宅には必ずいろいろがあり、いろいろには必ず自在鍵が釣してあった。随って新しく一戸を構える事を新しく鍵筒を下げるなどと言った。新しく耕地の仲間入をし、平等な恩恵に浴す

る為には平等な義務を負わねばならない。平等な義務を課す事を鍵筒割などと言った。

武田 寛

その祭りが、再び運営の壁にあたっている様であるが、今日までの長い歴史をもつ、堀越の郷土芸能であ

るこの祭りを、工夫、努力して後世に残したいと願っております。

初代会長 武田 勝



こんな思い出もいつまで

あとがき

第五分館としては初めての、分館報発行を沢山の方の協力を得て、当初の計画どおり、年四回発行を行う事ができました。

分館報では皆さんの意見等、何でもけっこうです。募集しています。お近くの分館役員か、分館長、主事の所まで原稿をお出し下さい。極力紙面へ載せて行きたいと思っています。よろしく願います。